

地域再生計画(道整備交付金) 事後評価調書

街と自然が共生する“赤城の恵”推進計画

平成28年3月

群馬県前橋市

地域再生計画（道整備交付金）事後評価調査書

都道府県名	群馬県	事業実施主体	群馬県、前橋市	地域再生計画名	街と自然が共生する“赤城の恵”推進計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	前橋市建設部長 稲垣 則行		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	林道整備によるアクセス改善	16分	H21	—	—	—	13分	H26	13分	○	森林地区【赤城山森林公園】から幹線道路【からっ風街道】への到達時間を3分短縮する目標を達成したこと、森林地区から幹線道路までのアクセス性が向上し、森林事業及び赤城山観光への振興に寄与した。
	指標 2	通学路等の整備による歩行者の安全確保	7箇所	H21	—	—	—	0箇所	H26	0箇所	○	バス路線や小中学校の通学路を整備することにより歩道設置、幅員狭小箇所の改善を実施でき、自転車歩行者の安全を確保することができた。
	指標 3	観光地への入場者数の増大	528,661人	H20	—	—	—	555,094人	H26	489,101人	×	赤城山と赤城山麓に立地されている観光地や景勝地に対するアクセス改善を行うことで利用者、来場者の増加を図り観光の振興を行うことを目標としていたが、計画に位置付けた“あいのやまの湯”の入場者数は平成24年度533,555人をピークに減少傾向となり、平成26年2月の記録的大雪や類似施設の新規登録などの影響により、結果目標としていた入場者数を7.5%下回った。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	道の駅の利用者数の増大	1,203,267人	H22	—	—	—	H26	1,318,664人	○	赤城南麓地域に立地する道の駅（ぐりんふわらー牧場大湖、赤城の恵、ふじみ）の利用者数は平成26年2月の記録的大雪の影響で一時減少したものの、全体的に増加傾向であり、赤城山麓へのアクセス改善の効果が見られる。	
	指標 2											
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度（H）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		10.1km	—	9.2km	今回の市道拡幅整備により自転車歩行者の安全が確保でき、また、観光地へのアクセス向上が図れたものと考え。ただし、計画に位置付けた1路線については用地交渉難航等の理由により事業完了に至らなかった。今後、より一層の観光地などへのアクセス改善を図るためには、自転車歩行者の安全確保を考慮しながら、現道拡幅など更に事業を推進していく必要がある。						
	林道整備事業（整備延長）		1.0km	—	0.9km	林道整備により幹線道路から森林区域へのアクセス改善が図れた。今後、森林事業の活性化、森林等の地域資源を利用した更なる観光・交流事業等の推進へと結び付くことが期待される。						
その他の事業	グリーンツーリズム事業		都市農村交流事業として農山村を舞台とした地域住民と都市住民との交流事業			都市農村交流として県内外の都市住民が農山村を舞台とした農業体験、里山体験等の体験学習を通して地域住民との交流を図る地域資源を活用した地域活性化事業を実施し、都市住民と地元住民とが交流し合い親睦を図ることができた。今後も継続して交流人口の増加を図り、更なる地域興しを推進していきたい。						
	観光地PR事業		赤城山周辺で四季に応じた各種イベント事業			観光地として名高い赤城山麓で行われる赤城南面千本桜まつり、大湖さくらまつり、赤城山夏祭り・雪まつり・つじ祭りなど実施し、首都圏から多くの観光客を呼び込むことができた。今後も継続して観光客の増加に繋がる充実したイベントを行っていきたい。						
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法	地域再生計画評価委員会を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
⑤事後評価の公表方法	前橋市政策推進課のホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	本計画では道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、市道整備では路線の進捗状況に応じて路線間や年度間の予算流用により柔軟かつ効率的に事業進捗が図れ、結果観光地へのアクセス向上や自転車歩行者の安全確保が概ね図れたものと認識している。本計画実施期間中は概ね円滑に整備が進んだものと認識しており、また山間部における観光振興、観光・交流人口の増加等も含め目標をほぼ達成したと考える。											
⑦今後の方針等	本計画は平成26年度をもって満了したものの、さらなる赤城山周辺の観光客増加・交流人口の増加を図るためには現在継続しているグリーンツーリズム事業、観光地PR事業をより一層拡充・推進していく。また、観光地などへのアクセス改善を図るため、本計画において事業完了に至らなかった路線を含め現道拡幅など事業を推進していく必要がある。											